太宰府の文化財 453

銭弘俶八万四千塔（原遺跡出土）

太宰府市指定文化財第32号有形文化財（考古資料）

本市の北東部にある太宰府天満宮から西を望むと四王寺山の東南斜面が見えます。ここには、中世山岳寺院「原山」※1（原山無量寺、原山無量寿院、原八坊とも称す）という天台宗寺院跡である原遺跡があります。

この原山では大変珍しい遺物が出土しています。それは銭弘俶八万四千塔（以下、銭弘俶塔）という小型の銅製塔の一部で、「方立」と呼ばれる塔笠部の四隅に取り付けられる馬の耳のような隅飾です。出土場所は12世紀から13世紀に存在したと推定されている礎石建物跡の南側斜面地の下方の土地からでした。この銅製塔は10世紀後半に中国江南の呉越国第5代国王の銭弘俶により作られた法舎利塔（仏教の経典を収めた仏塔）です。名称の八万四千塔とは実際の数ではなく、無数の塔という意味が込められています。

銭弘俶塔の画像
（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所提供）

現在わかっている作例では中国国内だけでなく、日本も含めて約50基と言われており、日本国内に伝来したものは完形品9基と塔の一部部品2基併せて11例見つかっています。この11例の1つが今回取り上げた原遺跡出土のものです。方立は高さ3.7㎝。最大幅2.8×1.7㎝。表側の2面には剣を持ち甲冑を纏う神将像が、裏には仏龕の中に如来坐像が表されています。これらの銅塔は天台僧日延が天徳元（957）年に呉越国から持ち帰ったものと考えられており、この日延はのちに大宰府に大浦寺を構え、隠居したと伝わっています。この大浦寺があったはっきりした場所は不明ですが、「浦」の字から浦ノ城という地名が残る原山であった可能性があります。

近年、原山に関する新しい文献史料である明庵栄西著『改偏教主決』や『重修教主決』が発見され、後に日本での臨済宗の開祖と称せられる入宋僧栄西と原山僧尊賀との密教教主※2についての論争が明らかになりました。中世の文献に恵まれなかった原山にとっては貴重な史料です。栄西の文章からは、原山が名山であることや僧侶が数百人おり、顕教・密教とも盛んに学ばれていたことがわかります。また、栄西と論争ができるほど原山では高度な宗教活動が行われていたことがうかがえます。『改偏教主決』の成立は安元元（1175）年前後とされており、栄西が創建した福岡市今津の誓願寺を本拠地として著述していた時期にあたります。この誓願寺には、重要文化財に指定されている銭弘俶塔の完形品が伝世しています。原山の銭弘俶塔は、誓願寺のものと大変良く似ており、栄西と尊賀、誓願寺と原山と、銭弘俶塔が結ぶ不思議な縁が感じられます。

銭弘俶塔は遠くインドからアジアを経由して日本に伝わった仏教を体現し、また仏教美術工芸品としての希少性からも大きな価値があります。

文化財課　髙橋 学

※1山岳寺院「原山」は、広報だざいふ令和2年4月号 太宰府の文化財419で詳しく紹介しています。
※2密教の教主である大日如来の身格をめぐっての論争（密教教主論）。

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198　太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121　FAX(921)1601　keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式SNSのフォローお願いします！